

第2学年 国語科学習指導案

学年・組	第2学年1組	期 日	平成24年6月29日	授業者	T1:松島 俊二 T2:鈴木 亜季
------	--------	-----	------------	-----	-------------------

単元名	「できるようになったよ」
-----	--------------

この単元を通して児童につけさせたい言語能力

- ・時間の順序に気をつけて「始め・中・終わり」で構成する力。
- ・書き終わった文章を見直し、間違いなどに気付き、直す力（誤字脱字、句読点、既習の漢字、作文のルール）。

この単元で重点化する指導事項

領域	A 話すこと・聞くこと	指導事項	ア話題設定や取材 イ話すこと ウ話すこと エ聞くこと オ話し合うこと
	B 書くこと		ア課題設定や取材 イ構成 ウ記述 エ推敲 オ交流
	C 読むこと		ア音読 イ説明的な文章の解釈 ウ文学的な文章の解釈 エ自分の考えの形成及び交流 オ自分の考えの形成及び交流 カ目的に応じた読書
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項		イ(オ)句読点の打ち方や、かぎ(「」)の使い方を理解して文章の中で使うこと。

上記の指導事項を踏まえて設定する言語活動

設定した言語活動 (言語活動例)	・「始め・中・終わり」で構成を書き、それに沿って文章を書く活動。 ・自分が書いた作文について見直し、修正する活動。
設定理由	・「始め・中・終わり」の構成を意識して文章を書くことが設定されている単元を、児童が学習するのは、本単元が初めてであるため。 ・これまでに自分が書いた文章を見直す機会はあったが、間違い等に気付く児童は少なかった。本単元では推敲する場面も設定されているため、これを機会に文章を見直す習慣づけの一助とすると共に、推敲の仕方も指導したいと考えるため。
設定した言語活動の 系統	(1) 下学年での学習経験 なし ・ あり 【第1学年「おもいだしてかこう」「じゅんじょよくかこう」】 (2) 上学年へのつながり (第6学年までのつながり) なし ・ あり 【第3学年「心にのこったことを書こう」】

以上のことを踏まえ、家庭学習も考慮した指導計画

時	到達目標 (活動目標) 【評価】	学習活動	家庭学習	指導事項
取 事 前 組 の み			・自分ができるようになったことを3つ書いてくる。(プリント)	
1	できるようになったことを思い出し、今後の学習の見直しを持つ。【 関 ・ 書 】	・できるようになったことを思い出し、誰に伝えたいか考える。 ・学習の見直しを持つ。	・同じ内容で文章の順番が違う作文の中から、分かりやすい作文を選択する。(プリント)	B(1)ア
2	伝えたいことを「始め・中・終わり」の順で整理する方法を知ることができる。【 書 】	・「始め・中・終わり」の順に整理する方法を知り、整理の仕方を練習する。	・始めと終わりの部分を穴埋め式で書いてくる。(プリント)	B(1)イ
3 本 時	自分が伝えたいことを「始め・中・終わり」の順に整理することができる。【 関 ・ 書 】	・自分が伝えたいことを「始め・中・終わり」の順に整理する。	・文章を「始め・中・終わり」に並び替える。(プリント)	B(1)イ
4	ノート例と文章例の対応関係をとらえ、様子がよく分かる文章の書き方を知ることができる。【 書 】	・ノート例と文章例の対応関係をとらえる。 ・文章例から、文章の書き方を知る。	・作文を視写し、原稿用紙の使い方を復習する。(プリント)	B(1)イ
5 ・ 6	整理したことをもとに、ひとまとまりの文章を原稿用紙に書くことができる。【 関 ・ 書 ・ 言 】	・原稿用紙の使い方を復習する。 ・整理したことをもとに、文章を原稿用紙に書く。	・文章の間違いを見付け、線を引く。(プリント)	B(1)ウ 伝国イ(オ)
7 ・ 8	書いた文章を読み返す観点を知り、誤りを直すことができる。【 書 】	・書いた文章を読み返す観点を知り、直し方を練習する。 ・自分が書いた文章の誤りを直す。	・校正記号を使った文章を直す練習をする。(プリント)	B(1)エ
9 ・ 10	書いた文章を友達と読み合い、感想を伝え合うことができる。【 関 ・ 書 】	・読み合うときの観点を知る。 ・班で文章を読み合い、良かったところをメモし、友達に伝える。		B(1)オ

本 時		
目標 自分が伝えたいことを「始め・中・終わり」の順に整理することができる。		
展 開		
段階	学 習 活 動	○留意事項 ☆支援
導 入 (7分)	1 教科書 P.75 の「青山さんのノート」を音読する。 2 本時のめあてを確認する。 今日、青山さんのように、自分が作文に書きたいことを「始め・中・終わり」にまとめていきます。	○ 立って1回読ませる。 ○ 口頭でやることを伝え、展開部の作業時間を確保する。
展 開 (48分)	3 宿題でやってきたプリントの確認をする。 (1) 「始め」と「終わり」の部分を書いてきたことを確認する。 (2) 隣同士読み合い、字の間違い等ないかチェックする。 (3) 構成シートに視写する。 4 「中」の部分を書く。 (1) いつのことか書く。 (2) 最初はどうか書いたか書く。 (3) それからどうしたか書く。 (4) するとどうなったか書く。 (5) 最後にできたときのことを書く。 5 題名を書く。 6 構成シートを読み直し、間違い等ないかチェックする。 (1) 自分で読み直す。 (2) 隣同士交換してチェックする。	○ 宿題をやってきたことで、「始め」と「終わり」がすぐに出来上がったこと、そのおかげで時間のかかる「中」の部分に時間がとれることを伝え、宿題の有用感を高める。 ☆ T2 は、視写が苦手な子を中心に机間指導する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>評価規準</p> <p>【関・意・態】 構成シートに記述されている言葉をヒントにしたり、前時で使用したプリントを参考にしたりして、自分で構成シートを書き進めようとしている。 ☆ 前時で使用したプリントを見てもよいことや、教師に相談してもよいことを伝える。</p> <p>【書く能力】 「中」の部分を経験の順序に沿って書くことができる。 ☆ T2 は作文が苦手な子を中心に机間指導で個別対応し、T1 はその他の子を中心に机間指導する。</p> </div> ○ ひとつずつ全体で進めていく。 ○ 題名が思いつかない時は「できるようになったこと」でよいことを伝える。 ○ 隣同士読むことで、最初「始め」と「終わり」だけだったのが、「中」も入って内容が膨らんだことをお互いに認め合う。
終 末 (5分)	7 本時の学習を振り返る。 8 次時の予告をする。 9 宿題プリントを渡す。	○ 振り返りシートを使い、項目に沿って振り返る。 ○ 次時は、構成シートを使った書き方を学習することを伝える。

ふりかえり カード

名まえ

☆ つぎの しつもん に こたえましよう。

◎…そう思う ○…まあまあ △…そう思わない

日にち	あ	い	う	え	お	か
① きのうの 国語の しゅくだいのおかげで じゅぎょうが よく分か り、しゅくだいを ちゃん とやって よかったと 思う。	①	①	①	①	①	①
② 今日の 国語の べんきょうは、よく 分かった。 「よくできた。」	②	②	②	②	②	②
③ 今日の しゅく だいを がんばって やってみようと思う。	④	④	④	④	④	④

しゅくだいプリント

名まえ

1 入学してから今までに、学校生かつで できるようになったことを

三つ 書きましょう。

①	②	③
---	---	---

2 入学してから今までに、おうちの生かつで できるようになったことを

一つ 書きましょう。

①

☆ 次のさく文は、どちらもないようは おなじですが、書いている
じゅんばんが ちがいます。どちらの さく文が 分かりやすいですか。
分かりやすいと おもう方の □の中に ○を 書きましよう。

ぼくは、一りん車にのれるようになりました。

ひる休みに、まい日、校でいで一りん車のれんしゅうをしました。ぼくは、一りん車
にじょうずにのれる木村くんと、いつもれんしゅうしていました。

さいしよは、足を地めんからはなすのがこわくて、なかなかのれませんでした。

それから、かべにつかまってれんしゅうしたのですが、バランスがとれなくて、すぐ
におりてしまいました。すると、木村くんが、

「まい日、あきらめずにれんしゅうすると、できるようになるよ。ぼくも、さいしよは
のれなかったんだ。」

と言って、はげましてくれました。ぼくは、それを聞いて、ゆう気がわいてきました。

それまでこわかったけど、思いきって、足を地めんからはなすようになりました。その
日からまい日、ひる休みにれんしゅうをつづけました。

一か月ぐらいたつと、ぼくは、一りん車にのれるようになっていました。木村くんと
いっしょに一りん車ではしることもできるようになりました。

ぼくは、一りん車にのれるようになって、とてもうれしいです。木村くんが話したと
おり、あきらめずにれんしゅうしてよかったと思います。

ひる休みに、まい日、校でいで一りん車のれんしゅうをしました。ぼくは、一りん車
にじょうずにのれる木村くんと、いつもれんしゅうしていました。

さいしよは、足を地めんからはなすのがこわくて、なかなかのれませんでした。

それから、かべにつかまってれんしゅうしたのですが、バランスがとれなくて、すぐ
におりてしまいました。すると、木村くんが、

「まい日、あきらめずにれんしゅうすると、できるようになるよ。ぼくも、さいしよは
のれなかったんだ。」

と言って、はげましてくれました。ぼくは、それを聞いて、ゆう気がわいてきました。
それまでこわかったけど、思いきって、足を地めんからはなすようになりました。その

日からまい日、ひる休みにれんしゅうをつづけました。

一か月ぐらいたつと、ぼくは、一りん車にのれるようになっていました。木村くんと
いっしょに一りん車ではしることもできるようになりました。

ぼくは、一りん車にのれるようになって、とてもうれしいです。木村くんが話したと
おり、あきらめずにれんしゅうしてよかったと思います。

ぼくは、一りん車にのれるようになりました。

☆ じぶんが さく文に 書きたい「できるようになったこと」について 書きます。 □ に ことばを 入れて、文を かんせいさせましょう。

○ できるようになったこと

が

できるようになった。

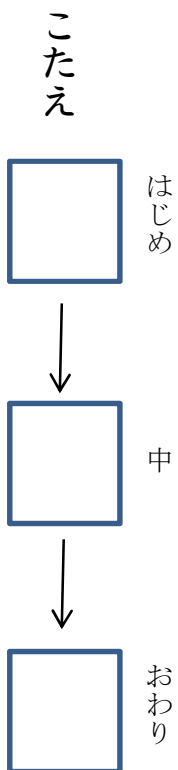
○ できるようになって 思ったこと

と 思った。

しゅくだいプリント

名まえ

☆ つぎの 三つを 「はじめ・中・おわり」の じゅんに ならべるとど
のような じゅんになりですか。㊦㊧㊨で こたえましょう。



㊦ 土よう日のごごに、田中さんの家であそびました。雨がふっていたので、家の中
でおり紙をしました。

さいしよ、わたしは、おり紙がにが手なので、田中さんがおるのを見ていました。
それから、田中さんが、

「いっしょにおろう。」

と言ったので、田中さんにおそわりながら、つるをおりました。でも、さいしよに
おったつるは、しっぱいしました。がっかりしていると、田中さんがはげましてく
れました。

それから、何かいかつるをおっているうちに、じょうずにおれるようになりまし
た。田中さんのお母さんもほめてくれました。

㊧ わたしは、おり紙でつるをおれるようになりました。

㊨ おり紙でつるをおれるようになって、おり紙がおもしろいと思いました。こんど
は、べつなものをおれるようになりたいです。

しゅくだいプリント

名まえ

☆ 国語の教科書の 百二十四ページから 百二十五ページにある「こじま けんた」くんの さく文を ししやしましょう。教科書のとおりにかん字を 書いたり、行をかえたりしましょう。

つくりました。

おかあ

さんが、

ぼくは、

しゅくだいプリント

名まえ

☆ つぎの さく文には、なおしたいところが、ぜんぶで 十こ
あります。なおした方が、いいと思うところの 右がわに、
じょうぎで まっすぐに線を ひきましよう。

と	か	が	ま	な		ん	に	た	で		り	ぼ
言	っ	、	せ	す	さ	し	の	。ぼ	一	ひ	ま	く
つ	た	「	ん	の	い	ゆ	れ	く	り	る	し	は
て	ん	」	で	が	し	う	る	わ	ん	や	た	、
く	だ	ぼ	し	こ	し	し	木	、	車	す	。	一
れ	だ	く	た	わ	よ	て	村	一	の	み		り
ま	。	も	。	く	わ	い	く	り	れ	に		ん
し	が	、	す	て	て	ま	ん	ん	ん	、		車
た	ん	さ	る	、	な	し	と	し	し	ま		の
	ば	い	と	な	か	た	、	。	ゆ	い		れ
	れ	し	、	か	な		い		う	つ		る
	。	よ	木	な	か		も		お	も		よ
		は	村	か	の		も		し	れ		う
		の	く	の	れ		れ		ま	い		に
		れ	ん	れ	な				し	校		な
		な							し	て		
									い	い		

しゅくだいプリント

名まえ

☆ つぎの さく文には、なおしたいところが、ぜんぶで 十こ
あります。なおした方が いいと思うところを 学しゅうした
なおすしるしをつかって なおしましょう。

と	か	が	ま	な		ん	に	た	で		り	ぼ
言	っ	、	せ	す	さ	し	の	。ぼ	一	ひ	ま	く
つ	た	「	ん	の	い	ゆ	れ	く	り	る	し	は
て	ん	ぼ	で	が	し	う	る	わ	ん	や	た	、
く	だ	く	し	こ	し	し	木	、	車	す	。	一
れ	だ	も	た	わ	よ	て	村	一	の	み		り
ま	。	、	。	く	わ	い	く	り	れ	に		ん
し	が	さ	す	て	く	ま	ん	ん	ん	、		車
た	ん	い	る	、	て	し	と	し	し	ま		の
	ば	し	と	な	、	。	、	車	ゆ	い		れ
	れ	し	、	か	足		い	に	う	日		る
	。	よ	木	な	お		つ	じ	お	、		よ
		は	村	か	地		も	よ	し	校		う
		の	く	の	め		も	う	ま	て		に
		れ	ん	れ	ん		れ	ず	し	い		な
		な			は							